

令和1年度 地域医療実習報告書



鶴ヶ原の景：玖珠町

令和2年3月
大分大学医学部地域医療学センター

ご挨拶

少子高齢化や医療費の高騰などを背景に、医療を取り巻く環境はますます厳しくなっております。病床の機能分化改革、地域医療ビジョンの制定、病院機能評価、地域包括ケアシステムの構築、在宅診療の促進、専門医制度改革など、様々な改革が始まっており、そのような時代や社会の変革の中で、「実践能力を有した医師」を育成することが、医学部教育に課せられています。さらに、「地域医療包括ケアシステムの一員」としての協調性やリーダーシップの資質が求められる一方、病んでいる患者さんに「共感する心」や「癒しのスキル」などのプロフェッショナルを兼ね備えた医師が求められています。このように社会が多様化するにつれ、社会から求められる医師像も多彩になってきました。

一方、医学部の教職員である我々は、大分大学医学部の学生諸君が楽しく医学を学びながら、医師としてのミッションを自覚し、自らの職業にやりがいと誇りを感じることのできる教育を提供したいと考えています。このような目的を達成するためには、医学部学生の臨床教育の「場」として大学病院のみならず、地域中核病院・地域の診療所での実習が理想的であると主張してきました。その結果、9年前から「滞在型の地域医療実習」を導入することができました。この9年の間、教育施設としてご賛同いただきました皆様のご多大な協力とご指導のおかげで、理想的な「地域医療実習」を構築することができていると考えています。「地域医療実習」に対する学生の関心度と満足度は極めて高く、学習効果も素晴らしいものに成長していると感じております。これも、日常診療のご多忙の中、教育活動にご尽力いただきました教育施設の皆様のおかげだと心から感謝申し上げます。

最新の医学教育モデル・コア・カリキュラムや新専門医制度の指針におきましても、益々、「地域医療での教育活動」の重要性が明記されています。今後とも、皆様とともに、実践能力を十分に有した良医を育て、大分県内の安心・安全な医療を推進したいと思っております。

これまでの皆様のご尽力に重ねてお礼申し上げますとともに、今後とも、かわらぬご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和2年3月吉日

大分大学医学部地域医療学センター

センター長

内科分野教授 宮崎 英士

外科分野教授 白石 恵男

目 次

1. ご挨拶	
2. 令和1年度地域医療実習における臨床教授等一覧	
3. 実習の手引き	1
4. オリエンテーション	25
5. ワークショップ・集合写真	29
6. 学生アンケート	51
7. 地域医療実習フィードバック	55
8. 地域医療実習に関する情報交換会	61

令和1年度
地域医療実習における
臨床教授等一覧



令和1年度 地域医療実習における臨床教授等一覧

病 院（施設）名・現 職・氏 名

（敬称略）

豊後大野市民病院	院長	臨床教授	木 下 忠 彦
豊後大野市民病院	副院長	臨床教授	森 井 雄 治
豊後大野市民病院	副院長兼循環器内科部長	臨床教授	岩 尾 哲
豊後大野市民病院	総合診療内科部長	臨床教授	工 藤 政 信
津久見中央病院	院長	臨床教授	石 川 浩 一
津久見中央病院	担当理事	臨床教授	竹 下 泰
津久見中央病院	外科部長	臨床教授	藤 井 及 三
JCHO南海医療センター	名誉院長	臨床教授	亀 川 隆 久
JCHO南海医療センター	院長	臨床教授	森 本 章 生
JCHO南海医療センター	統括診療部長	臨床教授	佐々木 淳
杉谷診療所	院長	臨床教授	井 上 雅 公
特定医療法人長門真記念会長門記念病院	院長	臨床教授	後 藤 陽 一郎
大分健生病院	理事長	臨床教授	楢 原 真 由 美
大分健生病院	院長	臨床教授	酒 井 誠
大分健生病院	副院長	臨床教授	今 里 幸 実
大分健生病院	医師	臨床教授	伊 藤 和 信
大分健生病院	皮膚科医長	臨床准教授	荒 川 晶 子
臼杵医師会立コスモス病院	院長	臨床教授	下 田 勝 広
臼杵医師会立コスモス病院	副院長	臨床教授	舛 友 一 洋
臼杵医師会立コスモス病院	内科部長	臨床教授	近 藤 誠 哉
社会医療法人敬和会岡病院	統括院長	臨床教授	森 照 明
社会医療法人敬和会岡病院	院長	臨床教授	立 川 洋 一
社会医療法人敬和会岡病院	副院長・心臓血管外科部長	臨床教授	迫 秀 則
社会医療法人敬和会岡病院	副院長・消化器外科センター長	臨床教授	荒 巻 政 憲
社会医療法人敬和会岡病院	副院長・形成外科部長・創傷ケアセンター長	臨床教授	古 川 雅 英
社会医療法人敬和会岡病院	外科部長	臨床教授	佐 藤 博
社会医療法人敬和会岡病院	心血管センター長・循環器内科部長	臨床教授	永 瀬 公 明
社会医療法人敬和会岡病院	循環器内科部長・心血管センター長代行	臨床教授	宮 本 宣 秀
社会医療法人敬和会岡病院	整形外科部長	臨床教授	亀 井 誠 治
社会医療法人敬和会岡病院	脳神経外科部長	臨床教授	戸 井 宏 行
社会医療法人敬和会岡病院	循環器科部長	臨床准教授	金 子 匡 行
社会医療法人敬和会岡病院	循環器内科	臨床准教授	脇 坂 収
大分リハビリテーション病院	院長	臨床教授	山 口 豊
谷村胃腸科小児科医院	院長	臨床教授	谷 村 秀 行
めのクリニック	院長	臨床教授	米 野 壽 昭

病 院（施設）名・現 職・氏 名

（敬称略）

社会医療法人関愛会	会長	臨床教授	長 松 宜 哉
社会医療法人関愛会	理事長	臨床教授	増 永 義 則
医療法人関愛会佐賀開病院	副院長	臨床教授	大 屋 謙
医療法人関愛会佐賀開病院	内科	臨床教授	中 村 朋 子
竹田医師会病院	院長	臨床教授	白 石 晴 士
竹田医師会病院	外科部長	臨床教授	柳 井 眞 二
社会医療法人社団大久保病院	理事長	臨床教授	大 久 保 健 作
久住加藤医院	院長	臨床教授	林 下 陽 二
国東市民病院	院長	臨床教授	野 邊 靖 基
姫島村国民健康保険診療所	所長	臨床教授	三 浦 源 太
はるかぜ醫院	院長	臨床教授	坪 井 峯 男
杵築市立山香病院	院長	臨床教授	小 野 隆 司
杵築市立山香病院	副院長	臨床教授	石 尾 哲 也
医療法人新生会高田中央病院	理事長	臨床教授	淵 上 茂
医療法人新生会高田中央病院	顧問	臨床教授	坂 本 啓 二
医療法人新生会高田中央病院	院長	臨床教授	小 田 幸 明
医療法人新生会高田中央病院	皮膚科部長	臨床教授	野 柳 俊 明
医療法人新生会高田中央病院	泌尿器科部長	臨床教授	江 本 昭 雄
川島整形外科病院	理事長	臨床教授	川 島 眞 人
川島整形外科病院	院長	臨床教授	川 島 眞 之
川島整形外科病院	副院長	臨床教授	永 芳 郁 文
川島整形外科病院	第二診療部長	臨床教授	古 江 幸 博
川島整形外科病院	第一診療部長	臨床教授	木 山 達 男
かわしまクリニック	所長	臨床教授	田 村 裕 昭
医療法人財団天心堂	理事長・へつぎ診療所所長	臨床教授	松 本 泰 祐
医療法人財団天心堂 へつぎ病院	院長	臨床教授	石 丸 修
医療法人財団天心堂 へつぎ病院	副院長	臨床教授	宮 島 一
医療法人財団天心堂	へつぎ在宅クリニックASO所長	臨床教授	麻 生 哲 郎
医療法人財団天心堂	おおの診療所所長	臨床教授	岡 部 英 司
医療法人財団天心堂	介護老人保健施設陽光苑施設長	臨床教授	河 村 忠 雄
JCHO満布院病院	副院長	臨床教授	井 上 龍 誠

実習の手引き (抜粋)



地域医療実習における注意事項

実習を始めるにあたり

大分大学医学部は、大分県の高度先進医療・医学研究の拠点であると同時に、大分の地域医療を支える役割も担っている。近年、地域医療に対する社会的ニーズが高まっていることを踏まえ、大分大学では医学科5年生を対象に地域医療実習を開始した。本実習は、地域医療の第一線で活躍されている地域中核病院・診療所・介護保険施設の医師・看護師をはじめとするスタッフの方々、保健所・市町村行政の方々、および地域住民の方々から、多大な御協力を頂くことにより、初めて実現可能となったものである。

実習にあたり特に注意すること

- 1) 患者の“個人情報保護”を遵守すること。
- 2) 自身の健康に気をつけ、万全の体調で実習に臨めるように体調管理すること。
- 3) 時間を遵守すること。
- 4) 実習を欠席する場合は実習先病院と地域医療学センターに学生本人から連絡を入れること。
- 5) 挨拶を欠かさないこと。
- 6) 実習に相応しい服装、身なりをすること。
- 7) 患者には丁寧な言葉使い、誠実な態度で応接すること。

準備するもの

- 1) “清潔な”白衣
- 2) 名札
- 3) 聴診器、ペンライトなどの診察用具
- 4) 筆記用具・ノート類
- 5) 上履き（スリッパ不可）

その他の注意事項

- 1) 各自、配属先の病院連絡欄を一読し、実習配属の2週間前に担当医師および事務担当の方々に連絡を必ず入れること。
(本手引きに記載のない担当医師のメールアドレスは、個別にメールでお知らせます)
- 2) 実習初日(月曜日・祝日の場合は火曜日)の集合時間は9時、場所は管理棟3階中会議室です。



【大分大学地域医療実習における心得】

- 学生といえども、診療チームの一員として患者診療に『責任』を持って関わること。
- 自分のできる範囲で、自分の獲得している知識、技能、態度を使って患者に貢献すること。
その時、初めて自分には何が出来て、何が出来ないのかを知ることができる。
- 日々の研修を通して、貢献できる範囲を広げていくようにする。

地域医療実習の一般目標、到達目標、行動目標

【一般目標】

地域医療に貢献する能力を身につけるために、体験学習をとおして地域医療の現状および課題を理解し、地域医療における医師・患者関係および保健・医療・福祉・介護のネットワークを学び、地域住民が必要とする医療について考える。

【到達目標】

- 1) 地域医療に求められる役割と機能および体制等、地域医療の在り方を概説できる。
- 2) へき地における地域医療の現状と課題について説明できる。
- 3) 医師の偏在（地域および診療科）の現状について説明できる。
- 4) 地域における、保健（母子保健、老人保健、精神保健、学校保健）・医療・福祉・介護の分野間の連携の必要性について説明できる。
- 5) プライマリ・ケアの必要性を説明できる。
- 6) 地域における、救急医療、在宅ケアの体制を説明できる。
- 7) 患者、医療スタッフ、地域住民と良好にコミュニケーションできる。
- 8) 地域医療に積極的に参加・貢献する。

【行動目標】

- 1) 地域中核病院における病棟診療、外来診療に参加する。
- 2) 地域中核病院における救急医療（当直）に参加する。
- 3) 診療所における外来診療に参加する。
- 4) 訪問診療、訪問看護に参加する。
- 5) 保健所における業務に参加し、保健活動を体験する。
- 6) 介護保険施設における福祉、介護を体験する。
- 7) 医療スタッフと地域医療について語り合う。
- 8) 行政関係者や地域住民と医療について語り合う。

施設ごとの到達目標・行動目標

中核病院における病棟実習

- ① 1名の患者を2週間にわたり担当する。
- ② 原則として毎日、担当患者の間診、診察を行い、カルテ(学生用)に記載するとともに、日々の変化を主治医、あるいは看護師へ報告し、対処方法について検討する。
- ③ 担当患者の疾患のみならず、家族、暮らしている環境、地域について理解する。
- ④ 担当患者の処置、検査、手術、リハビリ等に立ち会い、指示された役割を果たす。
- ⑤ 担当患者の主治医意見書、訪問看護指示書、訪問リハビリ指示書等の草案を作成する。
- ⑥ 病棟患者の看護的業務の介助を行う。
- ⑦ 病棟カンファレンスや医療ソーシャルワーカー(MSW)の業務見学などを通じて、病院とその他の医療、介護・福祉施設との医療連携について理解する。
- ⑧ 機会があれば臨終に立ち会い、死後処置などを見学する。
- ⑨ 任された業務において、責任を持って患者に貢献するよう努める。

中核病院における救急(当直)実習

- ① 指導医とともに夜間当直を行う。
- ② 指導医の指導・監視の下、診察を行う。
- ③ 指導医の指導・監視の下、検査(心電図、検尿、採血など)を行う。
- ④ 指導医の指導・監視の下、治療(創傷処置、止血、縫合など)を行う。
- ⑤ 気管内挿管、心臓マッサージ、電気的除細動の介助、見学を行う。
- ⑥ 指導医の許可の下、患者、家族への病状説明に同席する。
- ⑦ 地域における救急医療および災害医療の体制を理解する。
- ⑧ 救急隊からの救急患者受け入れの流れを理解する。

中核病院における外来実習

- ① 初診患者の間診、身体診察を行い、診断・治療方針を自ら考える。
- ② 指導医の外来診察を見学し、患者・医師関係、臨床推論の仕方を理解する。
- ③ 再来患者の間診、血圧・体温・酸素飽和度(SpO₂)測定を行う。
- ④ 外来における処置の介助を行う。

診療所における外来実習

- ① 指導医の診察を見学し、医師-患者コミュニケーションや診察における技能や態度を学習する。
- ② 初診患者の間診および身体診察を行い、臨床推論を立てる。
- ③ 再来患者の血圧・体温・酸素飽和度(SpO₂)測定を行う。
- ④ 指導医の指導・監視の下、心電図、超音波検査を行う。
- ⑤ リハビリの介助を行う。
- ⑥ 創傷処置、皮膚消毒、包帯交換の見学、介助を行う。
- ⑦ 患者・家族へのインタビューから住民が診療所に期待する思いを理解する。

訪問診療実習

- ① 訪問診療(往診)に同行する。
- ② 訪問先で血圧・体温・酸素飽和度(SpO₂)測定、身体診察などを行う。
- ③ 患者の異変を察知する努力をする。
- ④ 患者および家族とのコミュニケーションを図る。
- ⑤ 患者および家族との会話から、在宅医療のメリット・デメリットを知る。
- ⑥ 患者の家族構成・居住環境を確認し、問題点とその解決策を考える。
- ⑦ 患者に必要な医療、福祉、介護について考える。

訪問看護ステーションにおける実習

- ① 訪問看護に同行する。
- ② 訪問先で血圧・体温・酸素飽和度(SpO₂)測定、身体診察などを行う。
- ③ 看護的業務(体位変換、おむつ交換、移送など)の介助を行う。
- ④ 患者および家族とのコミュニケーションを図る。
- ⑤ 患者および家族との会話から、在宅医療のメリット・デメリットを知る。
- ⑥ 患者の家族構成・居住環境を確認し、問題点とその解決策を考える。
- ⑦ 患者に必要な医療、福祉、介護について考える。

保健所における実習

- ① 地域の保健業務について学習する。
- ② 地域における予防医療の重要性を理解する。
- ③ 保健師の家庭訪問に同行し、その活動を体験する。
- ④ 食中毒や集団感染症の対応を見学する。
- ⑤ 地区の健康相談会などで業務を分担する。
- ⑥ 地域住民に対して健康講話を行う。

福祉施設における実習

- ① 看護的業務(体位変換、おむつ交換、移送など)の介助を行う。
- ② 入浴介助、食事介助などを手伝う。
- ③ リハビリテーションに参加し、介助を行う。
- ④ 入居者と懇談する等、コミュニケーションを図る。
- ⑤ ケア・カンファレンスに参加する。

市町村健康福祉課での実習

- ① 市長あるいは健康福祉課長から地域医療の現状について話を聞く。
- ② その地区の医療・保健・福祉のネットワークについて理解する。
- ③ 乳幼児検診・三歳児検診などに参加し、介助を行う。
- ④ 住民の健康相談に立ち会う。
- ⑤ 地域住民の医療ニーズを理解する。

地域医療実習病院

- ① 豊後大野市民病院
- ② 津久見市医師会立津久見中央病院
- ③ JCHO 南海医療センター
- ④ 大分健生病院
- ⑤ 臼杵市医師会立コスモス病院
- ⑥ 大分岡病院
- ⑦ 佐賀関病院
- ⑧ 竹田医師会病院
- ⑨ 国東市民病院
- ⑩ 杵築市立山香病院
- ⑪ 高田中央病院
- ⑫ 川島整形外科病院
- ⑬ 天心堂へつぎ病院
- ⑭ 宇佐高田医師会病院
- ⑮ JCHO 湯布院病院
- ⑯ 中津市民病院



豊後大野市民病院

病 院 長：木下 忠彦

実 習 責 任 者：木下 忠彦（事業管理者兼院長）

実 習 担 当 者：岩尾 哲（副院長） 森井 雄治（副院長）

工藤 政信（内科総合診療部長） 棚橋 仁（消化器内科部長）

加島 尋（糖尿病・代謝内科部長） 横山 敦（呼吸器内科部長）

其田 和也（外科部長）

実習協力施設：三重東クリニック 特別養護老人ホーム任運荘 障がい者支援施設膳々舎
大分県豊肥保健所 豊後大野市役所

第1週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	実習の概要説明 (地域医療学センター)			
火曜日	オリエンテーション (豊後大野市民病院)	院長と昼食	病棟実習・患者担当 内科カンファランス (豊後大野市民病院)	宿泊
水曜日	外来実習・リハビリ見学 (豊後大野市民病院)	昼食	病棟実習・看護実習 (豊後大野市民病院)	宿泊/当直
木曜日	診療所での外来実習 (三重東クリニック)	昼食	診療所での往診 (三重東クリニック)	宿泊 懇親会
金曜日	行政、市民との懇談 講義・相談業務など (市役所市民生活課)	昼食	保健所実習 (大分県豊肥保健所)	

第2週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	外来実習・指導医につく (豊後大野市民病院)	昼食	外科カンファランス 病棟実習 (豊後大野市民病院)	宿泊
火曜日	健診センター実習 (豊後大野市民病院)	昼食	訪問看護・訪問に同行 (豊後大野市民病院、市内)	宿泊/当直
水曜日	外来実習・指導医につく (豊後大野市民病院)	昼食	病棟実習 病棟カンファランス (豊後大野市民病院)	宿泊
木曜日	特別養護老人ホーム 障がい者支援施設 (講義、デイケア等) (任運荘、膳々舎)	昼食	特別養護老人ホーム 障がい者支援施設 (回診、介護保険学習) (任運荘、膳々舎)	宿舎片づけ
金曜日	発表会準備 (地域医療学センター)	昼食	発表会 (地域医療学センター)	

は地域医療学センターにて

津久見市医師会立 津久見中央病院

病 院 長：石川 浩一

実 習 責 任 者：石川 浩一（院長）

実 習 担 当 者：竹下 泰（病院担当特命理事） 藤井 及三（外科部長）
黒木 隆則（整形・リハビリ部長） 成松 隆弘（泌尿器科部長）

実習協力施設：介護老人保健施設つくみかん 津久見中央病院へき地巡回診療所
津久見市医師会訪問看護ステーション 津久見市医師会市民健康管理センター
保戸島診療所 秋岡医院 池邊整形外科 姫野胃腸科クリニック
津久見市役所健康推進課 中部保健所

第1週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	実習の概要説明 (地域医療学センター)			
火曜日	オリエンテーション、 病棟実習 (津久見中央病院)	昼食 (病院)	へき地巡回診療所(四浦)、 病棟実習 副院長より「地域医療について」	官舎宿泊
水曜日	介護施設での実習 (つくみかん)	昼食 (病院)	病院での実習 糖尿病カンファ、透析、3F	医局会
木曜日	市民健康管理センター実習 (センター)	昼食 (病院)	病院で手術・病棟実習 (病棟・搬入・手術)・病棟	当直
金曜日	保健所実習 (臼杵市)	昼食 (病院)	病棟での実習 放射線・薬剤・MSW	

内科・内視鏡・救急

第2週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	保戸島診療所実習 (保戸島)	昼食 (保戸島)	保戸島診療所実習 (保戸島)	官舎宿泊
火曜日	訪問看護での訪問実習 (訪問看護ステーション)	昼食 (病院)	内科回診、リハビリ回診、 病棟実習	官舎宿泊 スタッフとの懇談 会
水曜日	診療所実習 (市内)	昼食 (病院)	診療部各科部長からの話	医局会 指導医とのま め
木曜日	病院での外来実習 内科・外科回診・救急	昼食 (病院)	乳幼児健診・行政との懇談 (市民会館、市役所)	
金曜日	発表会準備 (地域医療学センター)	昼食	発表会 (地域医療学センター)	

は地域医療学センターにて

JCHO南海医療センター

病 院 長：森本 章生

実 習 責 任 者：森本 章生（院長、南海医療センター附属介護老人保健施設長）

実 習 担 当 者：森本 章生（院長、南海医療センター附属介護老人保健施設長）

実習協力施設：南海医療センター附属介護老人保健施設 長門記念病院
 杉谷診療所 大島診療所 南部保健所

第1週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	実習の概要説明 (地域医療学センター)			
火曜日	移動・オリエンテーション (南海医療センター)	昼食	病棟実習（受け持ち症例） 佐伯市の医療事情 (南海医療センター)	昼食
水曜日	病棟実習 リーダー看護業務 (南海医療センター)	昼食	病棟実習 リーダー看護業務 (南海医療センター)	昼食
木曜日	附属老健施設で実習 (介護老人保健施設)	昼食	地域往診 (長門記念病院)	昼食
金曜日	市内診療所実習 外来診療等 (杉谷診療所)	昼食	市内診療所実習 訪問診療 (杉谷診療所)	昼食

第2週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	外来・検査部実習 (南海医療センター)	昼食	病棟・リハビリ実習 (南海医療センター)	宿泊/当直
火曜日	市内診療所実習 定期船で島に渡ります。 (大島診療所)	昼食	救急・薬剤部実習 NSTの役割 (南海医療センター)	宿泊
水曜日	保健所実習 (南部保健所)	昼食	手術室実習 縫合・糸結び等 (南海医療センター)	宿泊
木曜日	外来・検査部実習 (南海医療センター)	昼食	病棟実習・まとめ (南海医療センター)	
金曜日	発表会準備 (地域医療学センター)	昼食	発表会 (地域医療学センター)	

は地域医療学センターにて

大分健生病院

病 院 長：酒井 誠

実 習 責 任 者：酒井 誠（院長）

実 習 担 当 者：植原 真由美（理事長） 足立 晃子（小児科医長） 今里 幸実（副院長）
 亀井 たけし（けんせいホームケアクリニック所長）
 仲 雷太（竹田診療所所長）

実習協力施設：竹田診療所 けんせいホームケアクリニック
 けんせい訪問看護ステーション、子育て・療育支援センター「きらり」
 健生訪問入浴サービスセンター

第1週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	実習の概要説明 (地域医療学センター)			
火曜日	オリエンテーション 病棟実習 (大分健生病院)	昼食	病棟実習 (大分健生病院)	懇親会
水曜日	内科外来実習 (大分健生病院)	昼食	デイサービス実習 (デイサービスすこやか)	夜間診療
木曜日	過疎地診療所実習 (竹田診療所)	昼食	過疎地診療所実習 (竹田診療所)	
金曜日	往診実習 (けんせいホームケアクリニック)	昼食	小児科発達特診実習 (大分健生病院)	当直 (1名)

第2週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	訪問入浴実習 (健生訪問入浴サービスセンター)	昼食	嚥下造影 (大分健生病院)	
火曜日	児童デイサービス実習 (子育て療育支援センターきらり)	昼食	乳児健診 (大分健生病院)	
水曜日	往診実習 (大分健生病院)	昼食	地域住民向け学習会に参加 (各集会所)	当直 (1名)
木曜日	訪問看護実習 (けんせい訪問看護ステーション)	昼食	実習報告会 (大分健生病院)	
金曜日	発表会準備 (地域医療学センター)	昼食	発表会 (地域医療学センター)	

上記は1例です。ご希望に応じて実習内容が選択出来ます。

は地域医療学センターにて

大分健生病院での実習の特徴

地域住民向け 学習会に参加	地域の皆さんが集まる学習会(医療生協班会)に、参加していただきます。 生活習慣病や健康増進について、医学生視点からアドバイスをお願いします。
竹田診療所実習	竹田市にある診療所にて、高齢過疎地医療の現場を体験出来ます。 【実習内容】外来、往診、デイケア
小児分野	医師、心理士、言語聴覚士が連携して、子どもとお母さんに関わっています。 子どもが大好きな方、発達障がいに興味のある方、是非実習にお越し下さい。 【実習内容】外来、乳児健診、発達特診、児童デイサービス
在宅分野	患者さんは、退院後どのような暮らしをしているのでしょうか。 自宅や施設を訪ねて、地域医療の在り方を学びましょう。 【実習内容】往診、訪問看護、訪問入浴、訪問介護、訪問リハ、歯科往診
介護分野	介護・福祉はこれから大切になってくる分野です。 利用者さんとの交流を通して、介護の現場を体験してみませんか。 【実習内容】グループホーム、ケアホーム、訪問介護、デイサービス

白杵市医師会立 コスモス病院

病 院 長：下田 勝広

実 習 責 任 者：下田 勝広（院長）

実 習 担 当 者：舩友 一洋（副院長） 近藤 誠哉（内科部長）
小川 聡（第一外科部長）

実習協力施設：介護老人保健施設南山園 藤野循環器科内科医院 吉田医院
白杵市地域包括支援センター 中部保健所 白杵消防署 白杵市役所保険健康課

第1週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	実習の概要説明 (地域医療学センター)			
火曜日	移動・オリエンテーション (コスモス病院)	院長と昼食	診療所での訪問診療実習A ／救急車同乗実習B (吉田医院／消防署)	宿泊 (懇親会)
水曜日	※在宅療養支援実習 (コスモス病院)	昼食	※在宅療養支援実習 (コスモス病院)	宿泊
木曜日	※医療と福祉の狭間 (地域包括支援センター)	昼食	※在宅療養支援実習 (コスモス病院)	宿泊／当直
金曜日	保健所実習 (中部保健所)	昼食	※病棟実習・カンファなど (コスモス病院)	

第2週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	老人保健施設での実習 (南山園)	昼食	老人保健施設での実習 (南山園)	宿泊
火曜日	※在宅療養支援実習 (コスモス病院)	昼食	乳幼児健診・行政との懇談 (市役所・保険健康課)	宿泊／当直
水曜日	※在宅療養支援実習 (コスモス病院)	昼食	診療所での訪問診療実習A ／救急車同乗実習B	宿泊
木曜日	※外来・手術室・内視鏡実習 (コスモス病院)	昼食	まとめ(発表) (コスモス病院)	
金曜日	発表会準備 (地域医療学センター)	昼食	発表会 (地域医療学センター)	

※)上記スケジュールは担当患者さんの退院支援に同行してもらうため、実習内容が変更になります。

は地域医療学センターにて

在宅療養支援	担当医の退院前在宅訪問、退院前多職種カンファレンス(備下撮影)などの他、療養支援室、医療連携室、リハビリ部門の実習へ同行、参加していただきます。
地域住民への健康講話	地域住民へ健康講話へ参加し、地域住民とのふれあいを体験していただきます。
訪問診療	市内の開業医からの訪問診療と一緒に同行していただきます。
介護部門	老健施設で利用者さんとの交流や自宅訪問など介護からの支援を体験していただきます。

- ・在宅療養支援実習は担当患者さんの退院予定により、実習内容を変更します。
- ・健康講話は日程が変更されるため、スケジュールの中にはありませんが、実習中どこかで実施します。

大分岡病院

病 院 長：立川 洋一

実 習 責 任 者：立川 洋一（院長）

実 習 担 当 者：迫 秀則（副院長） 荒巻 政憲（副院長） 古川 雅英（副院長）

実習協力施設：谷村胃腸科小児科医院 大分豊寿苑 大分市保健所
在宅支援クリニック すばる こいけぱる憩いの苑

第1週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	実習の概要説明 (地域医療学センター)			
火曜日	オリエンテーション (ガイダンス、病院見学、 電子カルテ記載法など)	指導医と昼食	栄養課 NST 地域医療連携 (コメディカルとの交流)	宿泊
水曜日	病院外来実習 (創傷、初期診療を中心に)	指導医と昼食	救急外来／病棟実習	宿泊
木曜日	グループホーム こいけぱる憩いの苑	昼食	訪問診療 (在宅支援クリニックすばる)	宿泊(当直)
金曜日	病院リハビリテーション 実習	院長と昼食	大分市保健所	

第2週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	病棟実習 (受け持ち患者診療、病棟薬 剤師、病棟リハビリテーション、 ヘルパー業務)	指導医と昼食	薬剤部／臨床検査 (コメディカルとの交流)	宿泊
火曜日	関連診療所で外来実習 (谷村胃腸科小児科医院)	昼食	放射線科 在宅訪問	宿泊(当直)
水曜日	大分豊寿苑	昼食	訪問看護 (訪問看護ステーション)	宿泊
木曜日	救急外来／病棟実習	指導医と昼食	病棟実習 (受け持ち患者、看護)	まとめ(発表)
金曜日	発表会準備 (地域医療学センター)	昼食	発表会 (地域医療学センター)	

は地域医療学センターにて

佐賀関病院

病 院 長：城 日出徳

実 習 責 任 者：増永 義則

実 習 担 当 者：長松 宜哉 増永 義則 城 日出徳 甲原 芳範 大屋 謙 大屋 ゆり 中村 朋子
杉本 剛 姫野 信治 黒田 明子 甲斐 誠司 松島 文子 平山 匡史 小川 慶太
織田 奈穂美 宇都宮 健志 飯尾 文昭 別府 幹庸 管 聡 橋本 さおり
長濱 明日香 坪山 明寛

実習協力施設：佐賀関診療所 こうざきクリニック 三重東クリニック 清川診療所 坂ノ市病院 王子クリニック
よつばファミリークリニック 高齢者介護施設ひまわり デイケアもみの木 有料老人ホーム海風
老人保健施設せきの郷 ナーシングホーム舞 訪看ステーションいろは

第1週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	実習の概要説明 (地域医療学センター)			
火曜日	オリエンテーション/内科外来		訪問診療①	
水曜日	選択①		栄養サポートチーム回診/病棟実習	懇談会
木曜日	へきち診療所実習		老人保健施設/訪問介護実習	
金曜日	選択②		訪問看護実習	

第2週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	リハビリテーション病棟実習		訪問診療②	
火曜日	メディカルソーシャルワーカー実習		病棟看護実習/褥瘡回診	
水曜日	選択③		選択④	当直実習
木曜日	病院内科外来実習		まとめ	
金曜日	発表会準備 (地域医療学センター)	昼食	発表会 (地域医療学センター)	

は地域医療学センターにて

【選択項目】

病院外科外来 実習	小一中規模の市中病院で外科の先生が行っている診療に参加。見学をします。	医師
病院整形外科 実習	小一中規模の市中病院で整形外科の先生が行っている診療に参加。見学をします。	医師
都市部診療所 実習	都市部の診療所で行われている医療に参加します。在宅療養支援診療所の役割について学びます。	医師、看護師
デイサービス 実習	利用者の方々と触れ合いながら、デイサービスの意義、実態について体験します。通所介護。	介護福祉士、看護師、ケアマネジャー
デイケア 実習	利用者の方々と触れ合いながら、デイケアの意義、実態について体験します。通所リハビリ。	理学療法士 作業療法士
訪問リハビリ 実習	理学療法士、作業療法士が利用者の自宅に出向くところに行きます。	理学療法士 作業療法士
ナーシングホーム 実習	医療が必要なのものの入居するほどではない方が過ごせるナーシングホーム。他施設との違いを体験します。	看護師 介護福祉士
歯科実習	歯科診療所で見学をします。歯科士の連携は高齢患者さんの口腔ケア、食事摂取を考える際にかかせません。	歯科医師 歯科衛生士

竹田医師会病院

病 院 長：白石 晴士（院長）

実 習 責 任 者：白石 晴士（院長）

実 習 担 当 者：竹田医師会病院（白石 晴士院長 他）

加藤病院（加藤 一郎 院長 他） 大久保病院（犀川 哲典 院長 他）

久住加藤医院（林下 陽二 院長） 須小耳鼻咽喉科（須小 毅 院長）

くどう循環器科・内科（工藤 博司 院長）

実習協力施設：加藤病院 大久保病院 久住加藤医院 須小耳鼻咽喉科 竹田診療所

袖須医院 くどう循環器科・内科 大分県豊肥保健所 竹田市役所

第1週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日				
火曜日	実習の概要説明 (地域医療学センター)	昼食	オリエンテーション・病棟実習 (竹田医師会病院)	市内宿泊施設
水曜日	巡回診療 (竹田医師会病院)	昼食	訪問診療 (竹田医師会病院)	市内宿泊施設
木曜日	訪問看護介護実習 (大久保病院)	昼食	外来実習 (大久保病院)	市内宿泊施設
金曜日	外来実習 (須小耳鼻咽喉科)	昼食	保健所実習 (大分県豊肥保健所)	

第2週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	外来実習 (加藤病院)	昼食	外来実習 (袖須医院／くどう循環器科・内科)	当直(A) 市内宿泊施設
火曜日	診療所実習 (久住加藤医院)	昼食	インフルエンザ用邪農場視察 (久住加藤医院)	当直(B) 市内宿泊施設
水曜日	救急実習(ドクターカー・ヘリ) (竹田市消防本部)	昼食	行政との懇談 予防接種・健診視察 (竹田市役所)	市内宿泊施設
木曜日	地域連携・退院支援 (竹田医師会病院)	昼食	診療所実習 (竹田診療所)	
金曜日	発表会準備 (地域医療学センター)	昼食	発表会 (地域医療学センター)	

は地域医療学センターにて

国東市民病院

病 院 長：野邊 靖基

実 習 責 任 者：野邊 靖基（院長）

実 習 担 当 者：寄野 浩（副院長） 安田 一弘（副院長）
三浦 源太（姫島村国民健康保険診療所所長）
坪井 峯男（はるかぜ醫院院長）

実習協力施設：姫島村国民健康保険診療所 はるかぜ醫院 特別養護老人ホーム「鈴鳴荘」
国東市役所保健センター 姫島村役場 グループホーム「ひだまり」

グループ①⑤
(姫島村診療所)

第1週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	実習の概要説明 (地域医療学センター)			
火曜日	オリエンテーション 院長講話 (国東市民病院)	昼食	病棟実習 (国東市民病院)	医療スタッフとの 懇談会 宿泊
水曜日	地域医療連携業務体験 (国東市民病院)	昼食	訪問看護または巡回診療体験 (国東市民病院)	当直
木曜日	小児科外来実習 (国東市民病院)	昼食	病棟実習 (国東市民病院)	宿泊
金曜日	新患外来実習 (国東市民病院)	昼食	介護保健施設体験 (鈴鳴荘)	

第2週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	訪問リハビリ (国東市民病院)	昼食	病棟実習 訪問看護または巡回診療体験 (国東市民病院)	宿泊
火曜日	移動 ^① (姫島村診療所) オリエンテーション (姫島村診療所)	昼食	村長または総務課長との懇談 (姫島村役場) 訪問診療など (姫島村診療所)	宿泊 住民との懇談会
水曜日	外来研修、グループホーム研修 (姫島村診療所) (グループホームひだまり)	昼食	移動 ^② (国東市民病院) 病棟実習(国東市民病院)	宿泊
木曜日	保健活動体験 (国東市役所保健センター)	昼食	病棟実習(国東市民病院) まとめ(症例発表)	
金曜日	発表会準備 (地域医療学センター)	昼食	発表会 (地域医療学センター)	

は地域医療学センターにて

移動^①：国東市民病院からは病院公用車で伊美港まで移動。伊美港11時00分発のフェリーに乗り、11時25分に姫島港着。

移動^②：姫島港14時10分発のフェリーに乗り、伊美港から15時36分発のバスへ乗り、国東バスターミナルへ。

国東バスターミナル17時10分発、国東市民病院前経由のバスへ乗り換え。

※状況がある場合等、若干の日程変更があります。

グループ②④
(はるかぜ醫院)

第1週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	実習の概要説明 (地域医療学センター)			
火曜日	オリエンテーション 院長講話 (国東市民病院)	昼食	病棟実習 (国東市民病院)	医療スタッフとの 懇談会 宿泊
水曜日	地域医療連携業務体験 (国東市民病院)	昼食	訪問看護または巡回診療体験 (国東市民病院)	当直
木曜日	小児科外来実習 (国東市民病院)	昼食	病棟実習 (国東市民病院)	宿泊
金曜日	新患外来実習 (国東市民病院)	昼食	介護保健施設体験 (鈴鳴荘)	

第2週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	訪問リハビリ (国東市民病院)	昼食	病棟実習 訪問看護または巡回診療体験 (国東市民病院)	宿泊
火曜日	移動 ^① (病院公用車) (はるかぜ醫院)	昼食	移動 ^② (バス) 病棟実習(国東市民病院)	宿泊
水曜日	移動 ^③ (病院公用車) (はるかぜ醫院)	昼食	(はるかぜ醫院) 移動 ^④ (病院公用車)	宿泊
木曜日	保健活動体験 (国東市役所保健センター)	昼食	病棟実習(国東市民病院) まとめ(症例発表)	
金曜日	発表会準備 (地域医療学センター)	昼食	発表会 (地域医療学センター)	

移動^{①③④}: 病院公用車で移動。

移動^②: 実習の進行状況により時間変動あり。最寄りの大根毛バス停留所より乗車し、乗り換えをはさみ国東市民病院前まで。

1. 11時17分発のバスへ乗車し、国東バスターミナル12時15分発へ乗り換え。

2. 15時46分発のバスへ乗車し、国東バスターミナル17時10分発へ乗り換え。

※祝日がある場合等、若干の日程変更があります。

は地域医療学センターにて

杵築市立山香病院

病 院 長：小野 隆司

実 習 責 任 者：小野 隆司（院長）

実 習 担 当 者：石尾 哲也（副院長） 山下 昇（循環器内科部長） 藤井 猛（泌尿器科部長）
 半田 陽祐（小児科部長） 圓福 真一郎（外科部長）
 渡邊 英之（総合診療科） 菅原 功一郎（老健施設長）
 大野 繁樹（渡辺内科医院） 内田 勝彦（東部保健所）

実習協力施設：渡辺内科医院 東部保健所 杵築市介護老人保健施設「グリーンケアやまが」
 杵築市山香福祉ステーション 杵築市立山香病院健診センター 杵築市役所

第1週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	実習の概要説明 (地域医療学センター)			
火曜日	移動・オリエンテーション (杵築市立山香病院)	昼食	病棟実習 (杵築市立山香病院)	宿泊
水曜日	訪問看護実習 (杵築市山香福祉ステーション)	昼食	訪問リハビリ実習 (杵築市山香福祉ステーション)	宿泊(当直)
木曜日	外来実習 (杵築市立山香病院)	昼食	保健所実習 (東部保健所)	宿泊
金曜日	市の保健事業実習 (杵築市・健康長寿あんしん課)	昼食	訪問診察実習 (杵築市山香福祉ステーション)	

第2週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	病棟実習 (杵築市立山香病院)	昼食	市長との懇談 (杵築市役所)	宿泊
火曜日	診療所実習 (渡辺内科医院)	昼食	老人保健施設実習 (グリーンケアやまが)	宿泊
水曜日	外来実習 (杵築市立山香病院)	昼食	訪問入浴実習 (杵築市山香福祉ステーション)	宿泊(当直)
木曜日	健診実習 (杵築市立山香病院健診センター)	昼食	病棟実習・まとめ (杵築市立山香病院)	
金曜日	発表会準備 (地域医療学センター)	昼食	発表会 (地域医療学センター)	

 は地域医療学センターにて

高田中央病院

病 院 長： 瀧上 茂

実 習 責 任 者： 瀧上 茂 (理事長)

実 習 担 当 者： 藤岡 利生 (総院長 消化器センター長) 小田 孝明 (院長 整形外科部長)
野柳 俊明 (皮膚科部長) 三重野 齊 (内科部長 呼吸器内科部長)
江本 昭雄 (泌尿器科部長) 岩尾 俊昭 (消化器内科部長)
新納 哲男 (小児科部長) 長峰 政智 (麻酔科部長)
齋藤 美恵子 (内科副部長 糖尿病専門)
道野 慎太郎 (放射線科部長) 坂本 啓二 (顧問)

実習協力施設： 診療所「サンクリニック」 老人保健施設「サングレイス香々地」
介護老人ホーム「六輝園」 介護付有料老人ホーム「ケアブレイス・オリーブ」

第1週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	実習の概要説明 (地域医療学センター)			
火曜日	実習オリエンテーション 老健・診療所訪問	実習責任者 との昼食	企業産業医研修 介護老人ホーム往診	宿泊
水曜日	整形外科カンファ 回診、外来見学	昼食	内科カンファ 病棟(指定患者担当)	宿泊
木曜日	介護・保健・福祉行政 (保健所・市役所等)	昼食	へき地巡回診療 救急外来実習	夜間救急外来 実習 宿泊
金曜日	回診、外来診療	昼食	病棟看護、ケア実習	まとめ (意見交換) 次週予定確認

第2週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	整形外科カンファ 回診、外来見学	昼食	在宅支援部(通所リハ、 訪問看護、ケア事業)	宿泊
火曜日	外来見学 エコー立会い	院長との昼食	内視鏡見学	宿泊
水曜日	透析、リハビリ 放射線科 実習	昼食	病棟看護・ケア実習	懇談会 宿泊
木曜日	回診、外来診療	昼食	救急外来実習	総括
金曜日	発表会準備 (地域医療学センター)	昼食	発表会 (地域医療学センター)	

場合によっては予定が変更される事もありますのでご了承下さい。
予定が合えば、保健所や市役所等の行政活動に関する実習も取り入れます。

は地域医療学センターにて

社会医療法人玄真堂 川寫整形外科病院

病 院 長：川寫 真人

実習責任者：川寫 真人（理事長）

実習担当者：川寫 眞之（院長） 永芳 郁文（副院長）
 本山 達男（診療部長） 古江 幸博（診療部長）
 田村 裕昭（かわしまクリニック所長）

実習協力施設：ダイハツ九州 かわしまクリニック 老健なのみ
 訪問看護ステーションかわしま サ高住・デイサービスひだまり

第1週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	実習の概要説明 （地域医療学センター）	昼食	地域について予備学習 （地域医療学センター）	
火曜日	病院外来実習 （川寫整形外科病院）	昼食	クリニック外来実習 （かわしまクリニック）	宿泊
水曜日	病棟・手術実習・退院調整会議等 （川寫整形外科病院）	昼食	病棟・手術実習 （川寫整形外科病院）	宿泊
木曜日	訪問看護・リハ実習 （訪問看護ステーションかわしま）	昼食	病棟・手術実習 （川寫整形外科病院）	宿泊
金曜日	通所リハ・老健施設実習 （通所リハ・なのみ）	昼食	老健・サ高住・デイサービス実習 （なのみ・ひだまり）	

第2週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	クリニック外来実習 （かわしまクリニック）	昼食	病棟・手術実習 （川寫整形外科病院）	宿泊
火曜日	病院外来実習 （川寫整形外科病院）	昼食	クリニック外来実習 （かわしまクリニック）	宿泊
水曜日	病棟実習・退院調整会議等 （川寫整形外科病院）	昼食	産業医実習 （ダイハツ九州㈱）	宿泊
木曜日	病院外来実習 （川寫整形外科病院）	昼食	病棟実習・まとめ （川寫整形外科病院）	
金曜日	発表会準備 （地域医療学センター）	昼食	発表会 （地域医療学センター）	

は地域医療学センターにて

天心堂へつぎ病院

病 院 長：石丸 修

実 習 責 任 者：石丸 修（院長）

実 習 担 当 者：石丸 修（へつぎ病院院長） 松本 泰祐（へつぎ診療所所長）
 麻生 哲郎（へつぎ在宅クリニック ASO 所長） 河村 忠雄（陽光苑苑長）
 岡部 英司（おおの診療所所長） 宮島 一（へつぎ病院副院長）

実習協力施設：へつぎ診療所 へつぎ在宅クリニック ASO 介護老人保健施設 陽光苑
 おおの診療所 介護老人保健施設 おおの郷

1. へつぎ病院（火曜・金曜）、陽光苑（水曜・木曜）

月曜日	実習の概要説明 (地域医療学センター)			
火曜日	本部・へつぎ病院 天心堂のあゆみ オリエンテーション	指導医と昼 食 (検査)	へつぎ病院 チーム医療の流れ2 看護実習、透析カンファ・ 内科カンファ	
水曜日	ASO 訪問診療	昼食	陽光苑実習 ケアプランカンファレンス	
木曜日	へつぎ病院 透析・リハビリ	昼食	へつぎ病院 回復期リハ病棟 連携支援	
金曜日	陽光苑 入所者回診 入退所判定会議	昼食	陽光苑 施設長オリエンテーション 通所リハビリテーション	

2. へつぎ診療所・へつぎ在宅クリニック ASO（上段）、おおの診療所（下段）

第2週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	ASO 訪問診療	昼食	地域包括支援センター	宿泊
火曜日	へつぎ診療所 オリエンテーション 外来診療	昼食	健診・健康増進センター 保健指導 体力測定	宿泊/当直
水曜日	おおの診療所 オリエンテーション 外来診療	昼食	おおの診療所 訪問診療	宿泊 (大野町)
木曜日	おおの診療所 外来診療 主治医意見書作成	昼食	おおの診療所 外来診療	
金曜日	発表会準備 (地域医療学センター)		発表会 (地域医療学センター)	

は地域医療学センターにて

*1 第2週は、月火・水木で、へつぎ在宅クリニック ASO とおおの診療所へ相互に各々の実習。
 おおの診療所（下段）は戸次から約36km離れ、過疎地域での医療を体験できます。

*2 実習内容について、希望があれば調整可能です。

宇佐高田医師会病院

病 院 長： 柏木 孝仁

実 習 責 任 者： 柏木 孝仁（病院長）

実 習 担 当 者： 宇佐高田医師会病院（柏木 孝仁 院長他）

医療法人宇水会 クリニックオアシス（石田 浩一郎 院長他）

宇佐中央内科病院（徳光 陽一郎 院長他）

実習協力施設： クリニックオアシス 宇佐中央内科病院

医療法人宇水会 介護老人保健施設「オアシス宇佐」

宇佐市役所 健康推進課 宇佐高田地域成人病検診センター

第1週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	実習の概要説明 (地域医療学センター)			
火曜日	オリエンテーション 電子カルテ・施設説明 受持ち患者決定	昼食	へき地診療体験	宿泊
水曜日	病院病棟実習① (医師会病院・病棟)	昼食	行政との懇談 (市役所・健康推進課)	宿泊
木曜日	診療所での外来実習 A (市内病院)	昼食	病院病棟実習②・心カテ (医師会病院・病棟)	宿泊／当直
金曜日	病院外来実習① (各種検査含む) (医師会病院・外来)	昼食	福祉実習・手術 (医師会病院・連携室)	

第2週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	診療所での外来実習 B (市内クリニック)	昼食	病院病棟実習③ (医師会病院・病棟)	宿泊
火曜日	病院外来実習② (各種検査含む) (医師会病院・外来)	昼食 (医局会議)	病院病棟実習④ (医師会病院・病棟)	宿泊
水曜日	介護保険施設体験 (オアシス宇佐)	昼食	訪問看護・通所リハ実習 (オアシス宇佐)	宿泊
木曜日	検診センター実習 (成人病検診センター)	昼食	病院病棟実習②・心カテ (医師会病院・病棟)	
金曜日	発表会準備 (地域医療学センター)	昼食	発表会 (地域医療学センター)	

は地域医療学センターにて

JCHO湯布院病院

病 院 長：根橋 良雄

実 習 責 任 者：根橋 良雄（院長）

実 習 担 当 者：根橋 良雄（院長） 井上 龍誠（副院長） 針 秀太（整形外科部長）

実習協力施設：足立クリニック 介護保険サービスセンター 虹 老人保健施設 風香
 由布市社会福祉協議会 特別養護老人ホーム 温水園
 中部保健所由布支部

第1週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	実習の概要説明 (地域医療学センター)			
火曜日	オリエンテーション 病院案内、病棟業務説明 (湯布院病院)	昼食	病棟業務 【担当患者指定】 (湯布院病院)	院内宿泊
水曜日	外来、整形外科処置 (湯布院病院)	指導医と昼食	口腔ケア、往診歯科診療 (湯布院病院)	救急外来 院内宿泊
木曜日	地域包括センター (由布市社会協議会)	昼食	病棟看護 (湯布院病院)	院内宿泊
金曜日	訪問看護 (湯布院病院)	昼食	手術見学 (湯布院病院)	

第2週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	通所リハビリ、病院リハビリ (湯布院病院)	昼食	訪問リハビリ (湯布院病院)	院内宿泊
火曜日	介護施設実習 (「温水園」・「虹」)	昼食	介護施設実習 (老健「風香」)	救急外来 院内宿泊
水曜日	訪問診療 (湯布院病院)	指導医と昼食	保健所実習 (中部保健所由布支部)	院内宿泊
木曜日	診療所実習 (足立クリニック)	昼食	退院前訪問指導 (湯布院病院)	
金曜日	発表会準備 (地域医療学センター)	昼食	発表会 (地域医療学センター)	

 は地域医療学センターにて

中津市立中津市民病院

病 院 長：是永 大輔

実 習 責 任 者：横田 昌樹（事業管理者） 是永 大輔（院長）

実 習 担 当 者：日高 啓（副院長） 折田 博之（副院長） 木村 龍範（副院長）
 是松 聖悟（副院長、大分大学客員教授）
 福山 康朗（がんセンター長） 武末 文男（緩和ケアセンター長）

実習協力施設：槻木診療所 中津市 中津市教育委員会
 大分県立中津支援学校 大分県立宇佐支援学校
 NPO法人中津こども食堂

第1週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	実習の概要説明 (地域医療学センター)			
火曜日	病棟・外来など実習 (中津市民病院)	昼食	乳幼児健診など実習 (中津市、中津市民病院)	宿泊
水曜日	病棟・外来など実習 (中津市民病院)	昼食	緩和ケア病棟など実習 (中津市民病院)	宿泊
木曜日	診療所実習 (槻木診療所)	昼食	診療所実習 (槻木診療所)	宿泊
金曜日	病棟・外来など実習 (中津市民病院)	昼食	病棟・外来など実習 (中津市民病院)	

第2週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	病棟・外来など実習 (中津市民病院)	昼食	病棟・外来など実習 (中津市民病院)	宿泊
火曜日	病棟・外来など実習 (中津市民病院)	昼食	病棟・外来など実習 (中津市民病院)	宿泊
水曜日	病棟・外来など実習 (中津市民病院)	昼食	病棟・外来など実習 (中津市民病院)	宿泊
木曜日	病棟・外来など実習 (中津市民病院)	昼食	小児訪問診療、学校巡回など 実習 (学校・支援学校ほか)	
金曜日	発表会準備 (地域医療学センター)	昼食	発表会 (地域医療学センター)	

 は地域医療学センターにて

オリエンテーション



初日（オリエンテーション）日程		
9月9日（月）	管理棟3F 中会議室	
9月24日（火）	管理棟3F 中会議室	
10月 7日（月）	管理棟3F 中会議室	
10月21日（月）	管理棟3F 中会議室	
11月 5日（火）	研究棟1F 会議室	
時 間	内 容	担 当
8:50～9:00	出席確認・資料配布	
9:00～9:20	「いざ行かん！ 地域の現場へ」	宮崎
9:20～9:30	プレテスト・プレアンケート	山本
9:30～9:50	「実習の心得」	上田
9:50～9:55	休憩	
9:55～10:25	「20年後の地域医療がみえますか？ —あなたは、どこでどのような医師になられていますか？」	白石
10:25～10:40	課題学習について 「地域医療における必修の知識」 （介護保険制度・主治医意見書）	増田
10:40～11:05	実習オリエンテーション	阿部

* 下記の書類がすべてファイルに入っているか確認してください

- ① 初日オリエンテーション日程
- ② 名札用シール「医学生」（「Student Doctor」の上に貼ってください）
- ③ 最終日までめ日程
- ④ 地域医療実習での注意点
- ⑤ 振り返りシート（日報用）
- ⑥ 振り返りシート（週報用）
- ⑦ 主治医意見書 2枚（1枚は予備）
- ⑧ 「学生による地域医療実習の評価」（実習終了後記入）
- ⑨ 「クリニカル・クラークシップ自己評価表」（実習終了後記入）



ワークショップ
集合写真



ワークショップ

(事例検討)

—— テーマ ——

「地域包括ケアで支える」

症例: イソノ ヒラマサさん、90 歳、男性

病名: 進行胃がん・肝臓転移・がん性腹膜炎

概要: 娘夫婦・孫・ひ孫・認知症の妻と同居中。かかりつけの診療所にて高血圧で加療中であったが、3ヶ月前から全身倦怠感・体重減少があり、日中臥床していることが多くなった。そこで精密検査のため総合病院へ検査入院したところ、進行胃がん・肝臓転移・がん性腹膜炎が見つかり、余命2ヶ月と告知された。相談の結果、積極的な治療はせずに緩和ケア、在宅医療を希望された。

現在入院 10 日目。食事は流動食で何とかとれているが、足腰が弱ってきた。腹痛が時々あり、医療用麻薬も開始している。

本人は「早く退院して自宅で過ごしたい。最期は自分の家で逝きたい。」と言っており、退院に向けて多職種カンファレンスを行うこととなった。多職種カンファレンスに参加するメンバーは、主治医、病棟看護師、訪問看護師、病院の医療ソーシャルワーカー(MSW)、ケアマネージャー、訪問薬剤師、本人、娘である。カンファレンスの結果、退院後は在宅医療を行うこととなったため、ヒラマサさんの主治医であるあなたは、ヒラマサさんが介護保険サービスを利用するために主治医意見書を作成することになった。

<本人:ヒラマサさんについて>

元村議会議員。頑固な性格。やや難聴気味であり大きな声で話す。自分なりの信念(最期は家のタタミの上で逝く。余計なことをしなくてもいい。全部告知してほしい。)を持っている。今回、胃がんが進んでおり、余命もあと二ヶ月と言われて覚悟している。死ぬのは怖くない。告知してもらって人生の後始末ができるのでありがたいとも思っている。病院から直接自宅へ戻りたい。でも子供たちは忙しいし、あまり迷惑をかけたくない。

<妻について>

レビー小体型認知症で妻介護2.週 3 回のデイサービスを利用しているが、それ以外は娘が介護をしている。歩行時に転倒することがあり、夜間のトイレ歩行時に見守りと介助が必要。娘か娘の夫が隣に寝て、トイレ時の介助を行っている。

<娘について>

平日日中はパートをしている。本人(父親)との関係は良好。父親の思い(最期は自分の家ですごしたい、死にたい)は知っているが、現在は認知症の母親および孫とも同居しており、母親と孫の面倒も見なければならぬため、自宅で面倒を見るのは正直言って厳しいのではないかと思い、不安に感じている。

<娘の夫について>

自宅で農業をしている。今の時期は稲刈りが近く、忙しくなっている。家のことは妻(ヒラマサ

んの娘)に任せている。夜間は3日に1回程度、ヒラマサさんの妻のトイレ介助を行っている。

＜孫夫婦について＞

孫は35歳、会社員。仕事で帰るのが遅く、介護の手伝いも家事の手伝いもできていない。休日などは、なるべく家にいて祖父母と一緒に過ごす時間を作ろうと思っているが、自分の子供の面倒も見ないといけないと思っている。

嫁は32歳、現在育児休暇中。5か月の息子の世話で忙しいが、祖父母の世話もできる範囲で手伝いたいと思っている。

【現在のヒラマサさんのADL】

着衣：一部介助

食事：自立

移動：車いす利用、立ち上がりの際には手助けを要する

排泄：ポータブル使用

入浴：一部介助

買い物：行えない(娘が行う)

掃除：行えない

金銭管理：困難

食事の準備：行えない

認知機能：長谷川式認知症スコア：24/30

＜全員で共有しておく課題とスライドの内容＞

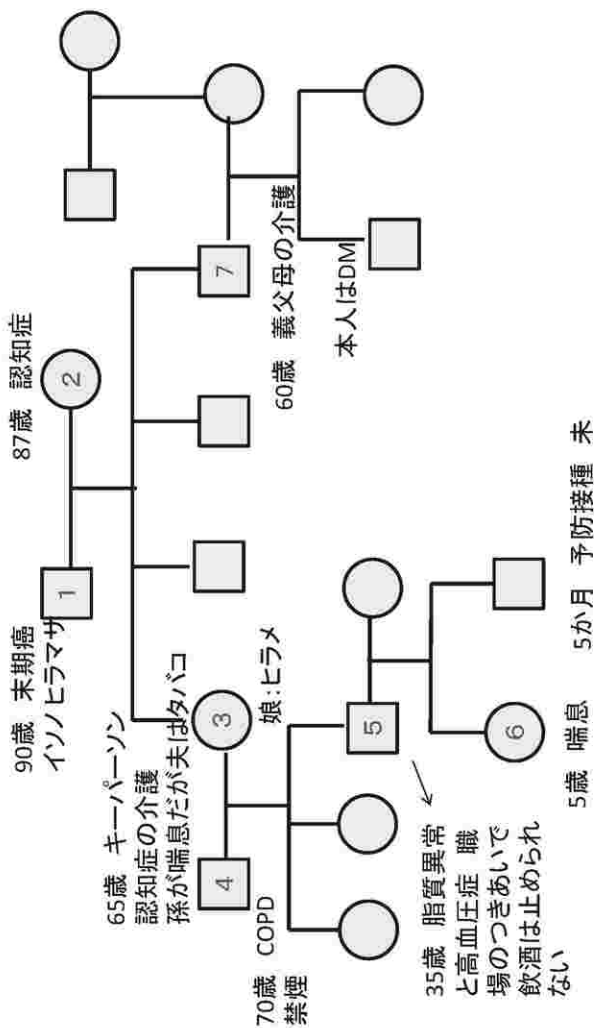
- ・ 介護認定を受けるときに、必要となるステップ
例えば、誰がどこに何を申請をするか、認定に必要な書類は何で、誰が作成するのか など
- ・ 退院時に多職種カンファレンスが必要になる症例はどのような症例か
- ・ ヒラマサさんが自宅に帰るにあたり、必要となる介護サービスは？
- ・ どのような職種との連携が必要になるか
- ・ 他職種とうまく連携するためには、どのようなことが必要でしょうか

これらをパワーポイントにまとめて14:00から発表してもらいます。

スライドには、グループ名とともに、班員の名前も記載しておいてください。

発表は5分程度でお願いします。

家族図



A班

安部 加那子・金子 裕美・古城 英貴・柚木 倫幸・渡邊 崇

地域医療

A班
安部、金子、古城、柚木、渡邊

ヒラマサさんの場合 (必要なサービス)

- ・訪問診療、訪問看護、訪問薬剤管理指導
(疼痛管理のため)
- ・通所リハ
(食事、AOL維持)⇒書ととにデイサービス利用
- ・訪問介護
(住居での食事用意など支援)
- ・訪問入浴介護
(住居での入浴)
- ・短期入所
(状況に応じた対応)⇒繁忙期にて
- ・住宅改修
(手すりの設置、バリアフリー)

他に薬師指導とかも必要かも！

ヒラマサさんの場合 (多職種連携)



医師、看護師、薬剤師、栄養士、PT、OT、ST、臨床心理士
ヘルパー、ケアマネージャー、MSW

将来的に、資料連携、薬科衛生士なども関わる必要があるかもしれない。

うまく連携するには...

- ・医療とケアの垣根を超える
(患者の生活背景なども含む考える)
- ・互いの仕事を理解し、情報を共有する
- ・今後起こる状況を想像し、対処法を考える
- ・患者の状況などを一貫してまとめる
(訪問ノートなど)

B班

漆畑 博太郎・朝日奈 文彦・渡辺 潤・菊池 希実・鬼塚 かやの

地域医療発表 Bグループ

漆畑 博太郎、朝日奈 文彦、渡辺 潤、菊池 希実、鬼塚 かやの

ヒラマサさんが自宅に帰るにあたり、必要となる介護サービス

デイサービス、自宅療養管理指導、在宅サービス

デイサービス入浴の介助、地域の方々との交流、食事、レクリエーション

自宅療養管理指導⇒医師・薬剤師・薬剤師などが家庭を訪問して、医学的な指導や指導を行う

在宅サービス⇒福祉用具貸与(車いす、ポータブルトイレ)

退院時に多職種カンファレンスが必要となる症例

- 退院前、退院後の患者に対して、医療・介護の連携が必要と考えられる場合

⑧ 脳梗塞、認知症、認知症、認知、ALS、パーキンソン病、がんなど

連携が必要となる職種

- ・ケアマネージャー：介護施設や今後の介護の制度などの説明
- ・医療ソーシャルワーカー：障害者手帳の発行など、自宅の状況の調査や退院時に必要な用具などの準備
- ・医師：薬の処方、病状の把握と共有
- ・薬剤師：薬服用指導など薬剤の服用指導
- ・看護師：家族への介護の指導、処置

→多職種とよく連携するためには、..?

それぞれの役割を把握しておくこと、定期的な多職種カンファレンスを行う、病院内での交流会(飲み会、旅行)

地域医療実習を終えて

C班 市原、岡田、岸、栗山、但馬

必要な介護サービス

- ・訪問診療
- ・訪問看護
- ・訪問物理療法
- ・訪問リハビリ診療（立ち上りの練習、歩行の補助）
- ・訪問入浴？（どのくらいの介助が必要かによる）
- ・デイサービス

どのような職種との連携が必要になるか

- ・主治医
- ・保健看護師
- ・訪問看護師
- ・MSW
- ・ケアマネ
- ・医療用具
- ・理学療法士
- ・作業療法士
- ・言語聴覚士
- ・訪問薬剤師
- ・歯科医

他職種とうまく連携するには

- ・話し合いの場を設けること
- ・他の職種の役割を理解
- ・は事分任をしっかりと行う
- ・みんな仲良くする（愚行に行くなど）

事例検討

ケース
上田 哲平 佐藤 貴大 山添 友衣雅

必要となる介護サービス

通所介護（デイサービス）
訪問介護（ホームヘルプ）
訪問リハビリテーション
ショートステイ
特定福祉施設利用

他職種との連携

主治医
訪問看護師
訪問リハビリテーション
ケアマネージャー
訪問薬剤師
理学療法士
介護福祉士

他職種との連携に必要なこと

地域包括ケア会議
をすすめること





第2クール

実習期間：9月24日～10月4日

A班

荒木 晶帆・上野 悠・宇田 優樹・大嶋 諒太・谷村 理穂・甲斐 大喜



イソノ ヒラマサさん
よりよい余生を考える

荒木 晶帆・上野 悠・宇田 優樹・大嶋 諒太・谷村 理穂・甲斐 大喜

退院時 多職種カンファが必要な症例

- ・ADLの低下した独居の高齢者
- ・認知症の夫婦（例 脳卒中チェックは必要）
- ・親に認知障害がある小児
- ・生活保護受給者
- ・老老介護で家族が遠方に住んでいる
- ・複学・復職
など

どのような職種と連携が必要か

- ・医師
- ・看護師
- ・薬剤師
- ・介護士
- ・ケアマネジャー
- ・栄養士
- ・言語聴覚士
- ・理学療法士
- ・作業療法士
- ・社会福祉士
- ・歯科衛生士
- ・臨床心理士
など

うまく連携するためには…

- ・多職種でカンファレンスをおこなう
- ・連絡ノートを活用する
- ・連絡が取れる体制を作る
- ・それぞれの職種について理解する
など

B班

江本 圭佑・後藤 尚希・田尻 咲・手嶋 真里乃・徳丸 朝子・長野 雄大

B班：江本・後藤・田尻・手嶋・徳丸・長野



ひらまささんのADL

- ①食事：一部介助
- ②移動：車いす、立ち上り時の
膝手助け必要
- ③排泄：ポータブル使用
- ④入浴：一部介助
- ⑤買い物：地代より
⑥掃除：できない
- ⑦金銭管理：依頼
- ⑧食事の準備：付かない
- ⑨認知機能：長谷川式24点

必要な職種

- ケアマネジャー：プラン立てる
介護士：訪問介護①②③④⑤
医師：訪問診療
看護師：訪問看護
薬剤師：訪問薬剤指導
理学療法士・作業療法士：訪問リハビリ
臨床心理士：訪問療育指導
家族：①～⑧

退院時に多職種カンファレンスが必要な症例は？

ADLが自立していない患者さんすべて！！！！

多職種とうまく連携するためには

医師等と…患者さんとより近い職種の仕事内容の意見を把握し、認めること。自分のメンタルコントロールをする。積極的な姿勢。

病院としての取り組み…医師以外の職種で連携する。患者さんごとの必要な情報でも共有する場を設ける。多職種で相談会を開く。



C班

小畑 天義・臼井 和樹・伊藤 はるか・高本 美智・当真 未来・金本 大翔

発表スライド C班

小畑 天義・臼井 和樹・伊藤 はるか・
高本 美智・当真 未来・金本 大翔

必要となる介護サービス

- ・訪問介護（ヘルパー）・・・事も更迭であり、本人も介護に迷惑をかけるという希望があるため
- ・訪問診療・・・患者の治療のため
- ・訪問看護・・・生活管理や病気の観察など
- ・訪問入浴・・・一部介助が必要のため
- ・通所リハ・・・日中施設がパートに出ており介助者がいない、また足腰が衰えて弱くなっているため
- ・訪問栄養食事指導・・・現在、高齢者であるが今後嚥下機能が落ちると予測されるため

連携が必要な職種

- ・ケアマネジャー
- ・（訪問）看護師
- ・ヘルパー
- ・PT
- ・OT
- ・ST
- ・栄養士



多職種との連携に必要なこと

- ・各職種がお互いの仕事を理解すること
- ・各職種が持てる情報も十分に出し、それぞれの役割の中で自分達ができることも理解する
- ・参加者全員が分かる言葉で話す
- ・定期的な話し合いの場を設ける
- ・各職種同士が親睦を深めること（飲み会など）



D班

堀迫 大介・岩田 美咲・西山 祐加・古本 裕也・安次富 駿介・増田 美津子

地域医療実習

D班
堀迫大介 岩田美咲 西山祐加
古本裕也 安次富駿介 増田美津子

ヒラマサさんに必要な介護サービス

- ・訪問診療
- ・訪問看護
- ・訪問介護
- ・訪問薬剤師

どのような職種との協力が必要か

- ・MSW
- ・ケアマネジャー
- ・訪問看護師
- ・訪問介護士

多職種との連携に必要なこと

- ・互いの仕事内容を理解・尊重すること
- ・情報を共有すること
- ・情報共有のためのシステム
- ・共通になること
- ・話し合いの場を設けること





第3クール

実習期間：10月7日～18日

A班

古城 直人・久保 隆盛・郡 奈央・棚瀬 万葉・高橋 美南・武末 竜運・貝森 峻

A班

古城 直人 久保 隆盛 郡 奈央 棚瀬 万葉 高橋 美南 武末 竜運 貝森 峻

ヒラマサさんが必要となる介護サービス

訪問診療

普段から関係を保ち、急変時や緊急時の際に対応を

訪問リハビリ

足腰が弱ってきているので肩たまり、ADL面での防止

訪問介護

入浴などの生活課題の介護の負担を減らすため

どのような職種との連携が必要になるか



他職種とうまく連携するために

- ・患者、患者家族が情報に参加してもらう
- ・メンバーの仕事の役割、尊重し、同じ目標に向かって協力、支援する
- ・メンバーの専門性やスキルを明確にする
- ・他職種の仕事内容を理解し、定期的に定常連絡を取る
- ・患者だけでなく患者家族の意見も聞く
- ・家族背景、地理的条件、本人の希望を十分に把握する
- ・チームの基本方針を共有する
- ・患者を中心に考える医療職と生活を中心に考える介護職では連携が
かみ合わない場面が出てくる
- ・職種間の教育の背景や文化の違いに配慮する

B班

尾崎 崇・國武 直人・國本 夕音・立川 夏帆・藤本 廉・大津 巨留

ヒラマサさんの未来

尾崎 崇 國武 直人 國本 夕音
立川 夏帆 藤本 廉 大津 巨留

必要な介護サービス

- ・訪問看護
- ・訪問診療
- ・リハビリ
- ・訪問介護
- ・配膳サービス

連携が必要な職種

- ・医師・看護師・介護士・介護士
- ・看護師・介護士・介護士
- ・介護士
- ・介護士・介護士・介護士
- ・介護士・介護士・介護士
- ・介護士
- ・介護士

うまく連携するために必要なこと

- ・連絡・情報の共有
- ・連絡頻度
- ・患者のニーズを把握
- ・介護職への力づけ
- ・職種・専門性を活かす



C班

小川 亮・梶谷 啓典・高妻 葵・高島 成香・伊達 美典・米増 諒介

地域医療実習 事例検討

C班：小川亮、梶谷啓典、高妻葵、
高島成香、伊達美典、米増諒介

本症例で必要となる介護サービス

- ・訪問診療
- ・訪問看護
- ・看護職員の見問による相談・支援
- ・訪問リハビリテーション
- ・短期入所療養介護

どのような職種との連携が必要になるか

- ・医師
- ・看護師
- ・介護支援専門員：介護認定申請のサポートやケア計画の作成
- ・訪問介護員：入浴の介助や掃除等
- ・理学療法士：筋力の維持、向上
- ・作業療法士：認知機能の維持
- ・言語聴覚士：嚥下機能の維持
- ・薬剤師：ケア計画の作成
- ・栄養士

多職種とうまく連携するためには

- ・お互いを尊重する
- ・それぞれの役割をよく把握する
- ・定期的に多職種カンファレンスなどの情報共有の場を設ける
- ・医師が率先して関わるようにする
- ・積極的な仕事の分担
- ・日頃からコミュニケーション
- ・可能な限り関係施設内でサポートを行う

D班

姫野 北斗・久保田 勇輝・酒井 佑・羽根 悠平・津森 三佳・郷田 悠

地域医療実習発表

症例：90歳男性

進行がん・肝臓転移・嚥下機能低下

グループA

姫野北斗、久保田勇輝、酒井佑、羽根悠平、
津森三佳、郷田悠

連携すべき職種

- ・主治医
- ・看護看護士
- ・訪問看護士
- ・MSW
- ・ケアマネージャー
- ・訪問薬剤師
- ・歯科衛生士
- ・栄養管理士
- ・理学療法士
- ・作業療法士

他職種との連携に必要なこと

・多職種カンファレンス

患者さんの現在の状態、本人の意向、家族の意向、自宅環境について共有し、それぞれの立場からの意見から退院後必要となるサービス内容を考える。

・クリニカルパスの作成

入院から退院に至るまでの治療・検査・処置・指導などの過程を記し、多職種で患者さんの情報を共有しコミュニケーションを円滑にする。

退院時に多職種カンファレンスが必要となるような症例

- ・医療面：医療処置、継続看護
- ・介護面：介護力、継続介護
- ・家族面：高齢世帯、日中独居
- ・経済面：利用制限、貧困



第4クール

実習期間：10月21日～11月1日

A班

地域実習

グループ A

下西広大、渡辺景、野嶋紗帆、永瀬保乃佳、木下裕里子、土田祐也、志手優仁

多職種との連携

- ・医師
- ・病棟看護師
- ・訪問看護師
- ・医療ソーシャルワーカー
- ・ケアマネジャー
- ・訪問薬剤師
- ・介護福祉士



多職種との連携

- ・多職種カンファの内容

- 在宅医療が可能な環境か
- ・緩和ケアチームの作成(薬の服用など)
- ・家族の助けは得られるのか

連携するうえで必要なこと

職種間の格差をなくす!!

そのためには...

- ・多職種同士の交流の場を増やす
- ・勉強会を通して地域の連携の問題点を各自のできる工夫について考える

・**いい意味でフラッシュな医者になろう**

下西 広大
渡辺 景
野嶋 紗帆
永瀬 保乃佳
木下 裕里子
土田 祐也
志手 優仁

B班

地域医療実習 グループB

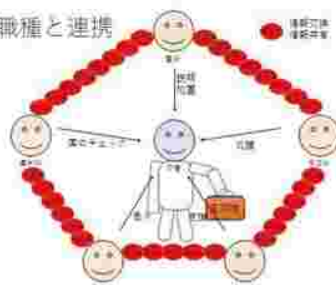
ヒラマサさんに必要な介護サービス

- ・訪問診療→医師
- ・訪問看護→看護師
- ・訪問リハビリ→理学療法士
- ・訪問薬剤管理指導→訪問薬剤師
- ・訪問介護→介護士(食事の準備など)
- ・ケアマネ、ソーシャルワーカー

退院時に多職種カンファレンスが必要になる症例

- ・認知症
- ・末期がん
- ・ADLが低下
- ・退院後もケアが必要な症例

他職種と連携



志水 憐
鈴木 宏明
高橋 宏太
藤岡 愛海
藤原 春菜
吉田 昂汰

C班

工藤 溪奈・濱田 奈央子・佐藤 雄太・田村 尚輝・佐々木 啓佑・瀬口 玄治



地域医療実習

D班
工藤 溪奈・濱田 奈央子・佐藤 雄太
田村 尚輝・佐々木 啓佑・瀬口 玄治



【必要と思われる介護サービス】

- ・訪問介護
- ・訪問看護
- ・居宅療養管理指導（訪問診療）
- ・福祉用具貸与
- ・ヘルパー



【どのような職種との連携が必要か？】



【多職種との連携に必要なこと】

- ・コミュニケーションをしっかりとること
- ・お互いの立場をしっかりと理解すること
- ・患者さんに対して共通の認識を持つこと
- ・コミュニケーションの活用
- ・多職種カンファレンスをしっかりと実施すること



D班

福田 千瑛・小川 拓志・立山 勝希・齋藤 有栄子・永井 唯菜・高橋 豊之進

地域医療実習 症例検討

D班
福田 千瑛・小川 拓志・立山 勝希
齋藤 有栄子・永井 唯菜・高橋 豊之進

必要となる介護サービス

- ・訪問看護—診療、処方、薬剤師の処方箋
- ・訪問看護—診療の対応、患者さんの心のケア、家族との連携
- ・訪問看護—身体介護、生活援助、通院介助
- ・介護保険

連携が必要となる職種

- ・医師
- ・看護師
- ・訪問ヘルパー
- ・ソーシャルワーカー—療養中の心理的・社会的・経済的問題の解決、調整機能、相談、受診援助
- ・ケアマネジャー—要介護認定業務、ケアプランの作成、管理、執行管理業務、要介護者本人と家族からの相談業務

多職種と連携するために必要なこと



- ・患者の疾患や病状の経緯などへの理解をすり合わせる
- ・他の職種の業務内容を知る人と理解する
- ・対等な立場で意見を言い合う
- ・一日頃から、話しやすい雰囲気・環境作りを心がける





第5クール

実習期間：11月5日～15日

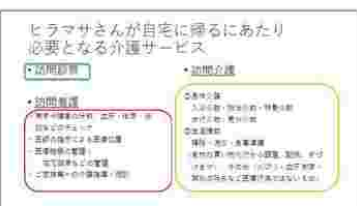
A班

津村 佳希・日置 宣秀・吉良 優花・吉川 侑里・永松 寛基・前田 晃希・小栗 由佳



B班

田端 愛・山浦 真衣子・三浦 真子・福田 貴仁・藤田 健人・矢野 恵司





最終日まとめ日程		
9月20日（金）	管理棟3F 中会議室	
10月 4日（金）	管理棟3F 中会議室	
10月18日（金）	管理棟3F 中会議室	
11月 1日（金）	研究棟1F 会議室	
11月15日（金）	管理棟3F 中会議室	
時 間	内 容	担 当
9:00～12:00	手紙について説明 お礼の手紙 作成 書類提出	宮崎
12:30～13:00	ワークショップ準備	
13:00～14:30	ワークショップ （事例検討）	宮崎 阿部 上田 石井 増田 塩田
14:30～14:40	写真撮影	

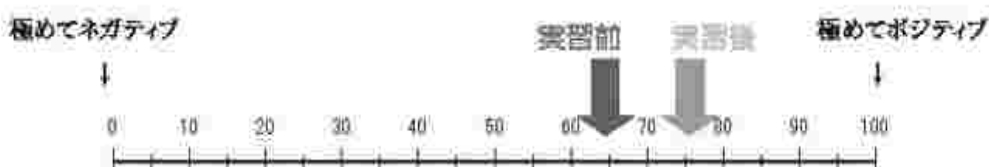
【提出書類】 12:00までに提出完了してください

- ① 「学生による地域医療実習の評価」
- ② 「クリニカル・クラークシップ自己評価表」
- ③ 主治医意見書
- ④ 振り返りシート（日報・週報の2種類）
- ⑤ お礼の手紙
- ⑥ ファイル（返却）

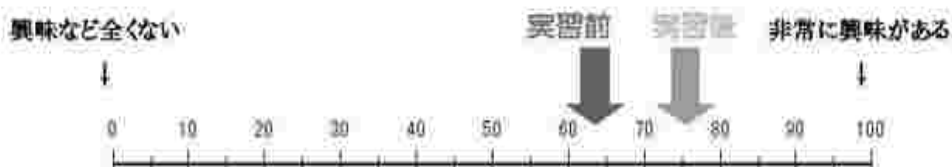
学生アンケート

地域医療実習 プレ/ポストアンケート

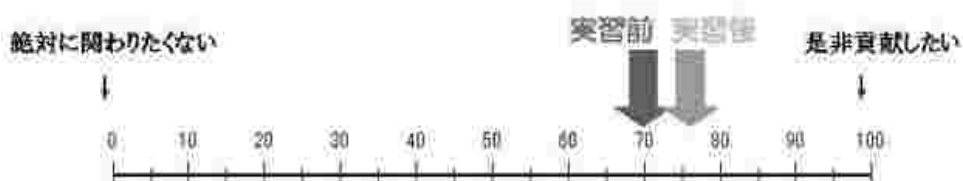
1. 地域医療についてどのようなイメージを持っていますか？



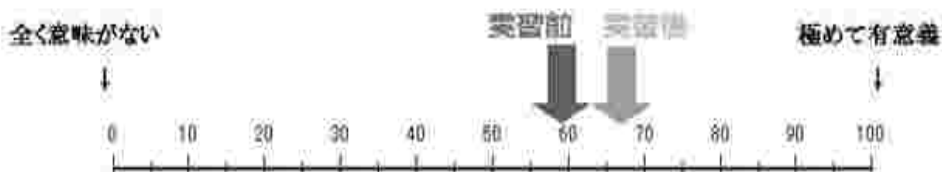
2. 地域医療に興味はありますか？



3. 将来、地域医療機関に貢献したいと思いますか？(時期や期間は問いません)



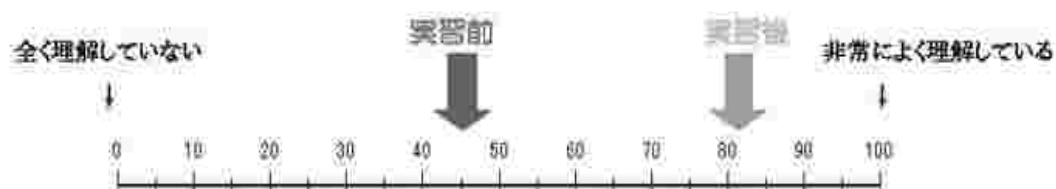
4. 卒後3～4年目の医師が、へき地医療機関で研修することは有意義だと思いますか？



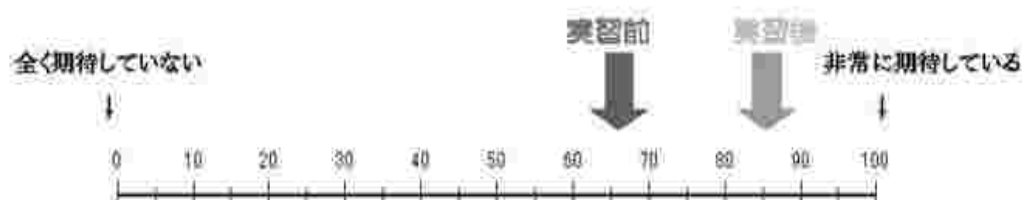
5. へき地の地域医療には“やりがい”があると思いますか？



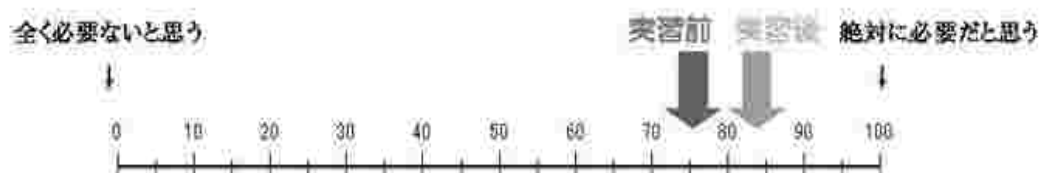
6. 今回実習させていただく地域病院のこと、地域のことをどの程度理解していますか？



7. 今回の地域医療実習への期待度/満足度はどの程度ですか？



8. 医学科の医学教育カリキュラムにおいて、地域医療実習は必要だと思いますか？



地域医療実習 フィードバック





学生への全体的な評価（コミュニケーション・生活面・学習態度など）学生の態度、カリキュラムやスケジュールについての不都合、学生とのコミュニケーションなど

- ・遅刻・欠席等もなく、移動も自分たちでやっていた。
- ・学生に主体性がなかったように思う。去年よりおとなしかった。
- ・電子カルテをスマホで撮っていたために注意をした。
- ・今年の子は真面目だった。
- ・体調を崩した子が2人いたので、実習がハードすぎたかと心配。
- ・発達障害の子の施設で楽しそうにやってくれていた。
- ・主治医意見書に名前などを書いていたのでチェックして書き直させた
- ・全体的に楽しくやっているようで、みんなハキハキしているし、好感が持てた。
- ・同じ子が何回か遅刻した。思い違いのようだが、一緒に来ている子はちゃんと来ていたので、前日に連絡したことはきちんと聞いておいてほしい。
- ・実習生はみんな非常にまじめで熱心だった。
- ・出欠状況についても問題なく、朝7:30分からのモーニングカンファにも来てくれた。
- ・子供世代と思うと好感が持てた。
- ・今回の実習に6名参加して、ごみの管理、飲み物散らかし等のマナー違反あり。これは人の教育として必要なことだと思います。
- ・今の学生は質問をしないです。求めてくるものが乏しい。興味があるのが疑問。
- ・当直の時呼んだらすぐに来てくれた。



実習日程・内容について（参加型実習への意見・診療にどの程度参加できていたか、どのように参加させる工夫をしたか）

- ・ 診療よりも、訪問介護、看護、巡回診療、健診センターなど。
- ・ 巡回診療などで採血をさせたり、実践に加わるようにしている
- ・ 在宅介護など連携施設、健康教室の講師、健診センターで見学等例年通り
- ・ 交代で往診がなくなったため在宅医療では訪問看護や訪問リハを積極的に行った。
- ・ 情報交換会で、実技を多くと言われたので全員に入院患者さんの、気管カニューレ交換をしてもらった。他にも皮下注など指導医の元で実施した。
- ・ 丸一日看護師について実習する（急性期病棟）・担当患者様から評価して頂く・診療所・保健所実習
- ・ 検査、リハビリ、薬剤部、老健、在宅医療
- ・ 発達特診での健康検査では全面にどんどん前に出すような形をとると、みんな頑張っていた。
- ・ 往診専門のクリニックでの往診活動、歯科の往診や診療所
- ・ デイサービスで出し物や班会という集まりで講義をしてもらった。
- ・ カンファ→自分の担当はプレゼンしてもらう。
- ・ IC→家族に実際に学生より説明してもらう。
- ・ 4～5年目のドクターに担当してもらう
- ・ 老健での実習、ケア会議参加、訪問診療等をやってもらった。
- ・ 例年と変わらず、在宅で機材の組立、おむつの交換、研修医と共に当直実習など
- ・ 昨年医師の診療を見たかったとあり、バランスよく多職種で診療を増やし見るコマを増やした。
- ・ 在宅や介護に関しては、施設や訪問診療を行った。
- ・ 市の地域医療について学んでもらいたいと思っている。そのため、地域の診療所等での実習を多くしている。
- ・ 主治医意見書については担当患者を当てていないため、今年はMSWから説明になった。
- ・ 見学メイン（採血なし、おむつ交換なし）
- ・ 1週目（水）午後 2週目（月）午後 訪問介護・2週目（月）午前 訪問リハ
- ・ 訪問診療を入れたい
- ・ カンファレンスや住民が集うサロンへの参加や、市役所の保健師さんとも交流してもらった。
- ・ 全科医師が集まる総合カンファレンスにも出席してもらった。
- ・ 地域ケア会議に参加、田舎へ同行。その他採血させる
- ・ 在宅や介護では、訪問看護、健診、僻地の相談会で住民とふれあい等行う。
- ・ 抜糸、処置などは積極的にやってもらった。
- ・ 在宅介護については、見学と制度の説明を行い施設、福祉、連携を見てもらった
- ・ 入退所会議（多職種カンファ）に出席させた。
- ・ 救急患者の臨床推論をさせた。（救急患者のカンファレンス）
- ・ 在宅介護は実施していないので協力して頂いている診療所で訪問介護等を行ってもらってる。
- ・ 地域包括病棟半日、ケアと看護処置を見学してもらったが、興味を持っていたように思います。

- ・回復期については、看護とケア一緒にやる時間がなかった。
- ・参加型実習については、リハビリ、回復期ケア、地域包括ケア、訪問介護、通所リハ、口腔リハなど歯科治療もふくめ見学。
- ・急性期から回復期、退院後、在宅、通所リハ、再入院など、自宅への調査なども確認に行ってもらった。
- ・参加型実習についてはできなかった、小児在宅を予定していたができなかった。
- ・訪問看護ステーションでいいなら取り入れられそう
- ・担当患者を増やした。退院前後訪問（2～3回）（自宅訪問をするP）
ただ、回数が増えたことによって、問題が増えたかもしれない
（自宅だと、学生をドクターと家族が見なしてしまう等）



来年に向けての意見・改善点など

- ・ 学生に与える課題、学生の評価項目を細かくしてほしいです。
- ・ 来年度も引き続き、行っていきたい。学生の要望を受けると学習面からよいのかどうか疑問に思うこともあるため、こちらがよいと思うことを学生に提供していった方がよいのか
- ・ 学生にどんなことをして興味を持たせているか、他の病院の実習プログラムを知りたい。
- ・ ホームページに力を入れているので、来年実習を希望する学生については、まずはホームページをみてから実習先として選んでほしい。
- ・ 他の病院でやっていたことで好評だったことを教えてもらえたら、次に組み込みたい。
- ・ 月曜が祝日になった場合、火曜の午後スタートとなるが、それについては問題ない。
- ・ 非常勤が当直の日に学生をつけるのが難しいので、今年は当直をなくした。次年度はなるべく行いたいと思う。
- ・ 在宅での一般的心得の指導
- ・ 振り返りシート（一日のやったことを書く）がちょっとお粗末かな？
一日、一日しっかり書けるものがないのではないかな
- ・ 病院内の患者との時間を設ける方が良いのか？そうすると何かを減らさないといけませんが。
- ・ オリエンテーションであまり説明を受けていない印象を持った。
- ・ 主治医意見書の作成については、担当患者を当てているわけではないため、今年は MSW から説明になった。なかなか医師が説明する時間も確保できず、学生さんがきちんとできているか気になる。
- ・ 指導医の関与を整えたい。
- ・ 実習に対する同意書のようなもの（患者さんに対する）を大学で作ってほしい
- ・ 針刺しなどの事故時のマニュアルのようなものが欲しい
- ・ あらかじめ、学生が聞きたいことや、知りたいことを教えてほしい。
（資料の準備に役立てたい）
- ・ 看護、リハなどいろいろな学生の受入れる時期
→逆手にとって学生同士の交流を持たせては？
- ・ 残念なのは、こちら側のマンパワー不足で提供する体制を確保できなかったこと。
- ・ 医師の充足が足りない。院長、外科部長は手術で人手が足りない状態です。
- ・ 主治医意見書の書き方など、指導するのに時間がかかっているが、大学側は一人ひとりどのように評価しているのか。出せばよいのであれば、こちらとしても労力を使っているだけにどうかと思う。
- ・ 大学側から、ぜひこのようなことをしてほしいなど、具体的にアドバイスや提案があればしてほしい。
- ・ 振り返りシートについて、本人の前ではマイナスなことは書きづらい。本人が見れないものが欲しい。最後に送ってもらう評価も悪いことは書きにくい。

地域医療実習に関する 情報交換会

地域医療実習に関する情報交換会

日時: 令和元年6月15日(土)14:00~17:00

場所: J: COM ホルトホール大分

2階 201・202会議室

大分県大分市金池南1-5-1 Ⅱ: 097-576-7555

プログラム

14:00~14:10

『地域医療実習の概要』

大分大学医学教育センター 助教 山本 恭子 先生
地域医療学センター(兼務)

14:10~14:30

『診療参加型実習の現状と課題』

大分大学医学教育センター 教授 中川 幹子 先生

14:30~15:00

『地域ぐるみの医療人育成』

長崎大学病院総合診療科 教授 前田 隆浩 先生

————— 休憩10分 —————

15:10~17:00

『ワークショップ』

医学生が積極的に地域住民と関わる実習にするために

グループディスカッション

グループ発表

全体討議

ワークショップ グループA

(医学生が積極的に地域住民と関わる実習にするために)

グループ A

水戸健生病院
平井東田法務事務所
SCHO 清和学院
EAPF コミュニティ医療
片倉製菓
中津市医師会
川原聖光月経病院
山梨県民

特徴的な取り組みについて

- ・大学でできないことを優先的に見せている
- ・嘱託医としての検診に同行させる
- ・地域で開催している健康教室に参加させる(地域住民との交流がもてる)
- ・公民館での健康教室・サロンに参加させたい
- ・高齢者の亲眼活動が見学できる
- ・消防署実習(救急車に同乗させる)
- ・今後、こども食堂にも同行させたい
- ・回復期病棟入院患者の退院前家屋訪問に同行させる
- ・チーム医療、多職種視点を学べる
- ・保健所に行かせているが、評判がよくないことが多い

診療参加型実習としてできていること

- ・外科手術での手洗い実習(臨床実習前の経験でも)
- ・カンニューレ交換の際にバックバルブマスクを使用させる
- ・予防接種
- ・採血
- ・超音波検査の見学、学生同士で手技を体験させる
- ・外来診療では予診をとらせているが身体診察までは時間的余裕がなく難しい
- ・消防署での実習(CPR症例の体験も)
- ・CPX(心肺運動負荷試験)の体験

学生を受け入れる上で困っていること・課題

- ・宿泊施設をどうするか、院内や宿舎等で準備できない場合
- ・通勤距離が長い場合、交通事故の対応は
- ・宿泊施設の確保をしない、学生がいる、させたほうがいいか?
- ・学生からの連絡が通い
- ・学生との懇親会はどのようにしているのか?
- ・市長が参加する場合もある
- ・初日にアルコールでオードブルをもって懇親会をしている
- ・SNSに飲み会の写真を公開された
- 実習中はスマートフォンを携帯しない対応をとっている



ワークショップ グループB

(医学生が積極的に地域住民と関わる実習にするために)

グループ B

富田中央病院
山梨病院
竹田地区医療センター
国東市立病院
川島地区医療センター
白河中央病院
大井町市立病院
国府川

診療参加型実習としてできていること

- ・ 新患のアナムネから診察が終わるまで一連の流れを経験してもらう
- ・ 自院の医師不足のため、開業医中心の実習にカリキュラムを変えて、その分はよくできている
- ・ 一人患者を割り振って2週間担当 feedbackも
- ・ 救急で来た患者、外部の診療等にもできるだけ参加してもらう(一緒に連れていく)
- ・ できるだけ患者さんと学生の2人の時間をつくってもらうようにしている
- ・ 実習終わりに受持ち患者のプレゼンテーションを行っている

特徴的な取り組みについて

- ・ 市役所の保健士、市長等とのコンタクト
- ・ 他職種との連携、仕事を理解するための取り組みを行っている
- ・ 学生にアンケートをとって振り返りを行っている(結果を担当した部署に送って参考にしてもらう)

学生を受け入れる上で困っていること・課題

- ・ 24時間の拘束？
- ・ カンファレンス時の受持ち患者の提示？
- ・ 学生にアンケートをとっても毎年同じようなことを書かれている、どうしたらよいか・・・
- ・ 実習の時期が決まるのが早いといよい(対応するため)
- ・ 忙しい中マンパワーが足りないところをどう対応するか・・・
(他職種にも参加をってもらうことで)
- ・ 態度のよくない学生への対応(生活面の指導とか)



(医学生が積極的に地域住民と関わる実習にするために)

佐賀県病院
津久井中央病院
唐海病院
大分健生病院
中津市立病院
宇佐南田区婦会病院
竹田医師会病院
高田中央病院

御家の中は、外半一半部が急き期、ゆへに、自顧がなれ、衆説相などにお
懸念して存正に参照してもらふようにしている。行政としては、三歳児健
などの日に考案をさせていたでいる。ただし、日にもがきむいこと
があるものや点を合わせるものに困っている。当道もどこか入って
もらって、あつたにならうか、などにも一助に参照してもらって
いる。

竹田医師会病院は山の中で孤児。2万3,000人が10,000人にならざる前にしてはいる。少ないスタッフで、外務から機嫌な一丁で二役もこなしている。いそいそと見ているたびに、両肩の骨とこしにいて、ホエークラクションをうっているのにもいて。車の中でたまたま道で逢えぬのではなく、わざと道に落ち、抱きかかえられ、きくやうなときを見て、地味な表情を戻してゐる。主治医研修の新人看護師が足らずにこれがあつたので、竹田の地域性を理解してもらふに努めている。

地域医療にしたいと思う病院ができていないのが、医学生が地域医療を、
たいと願う人が増えているだけなのか、それができているのが、目標がない
学生、内科系、外科系など決めている人が、最初の講義の時に、一生科、とは言
わないが、一度くらいは飛んでみると言っている。



ワークショップ グループD

(医学生が積極的に地域住民と関わる実習にするために)

グループ D

宇佐高田医師会病院
豊後大野市民病院
山香病院
国重市民病院
中津市民病院
よつばファミリークリニック
大分健生病院
ICHO(南)海病院

診療参加型実習としてできていること

- ① 施設診療所と、はるかぜ診療所で一次医療の姿を見ている。
- ② 昼と夜、地域の住民、行政とふれあう機会を必ず設けている。
- ③ 病院長と指導医、実習生との懇親会を設けて、コミュニケーションを図っている。
- ④ 福祉/介護などの多職種会議に出席・参加させている。
- ⑤ 学生の主体性を生かすべく、実習内容を複数の中から選択できるよう準備している。
- ⑥ 地域の保健所に半日実習に行かせている。
- ⑦ 地域住民向けの懇話会・勉強会で、学生に講演内容を作ってもらい、そのまま講師になってもらい、地域の医療学習を実践してもらっている。

特徴的な取り組みについて

- ① 飯島診療所とはるかぜ診療所、越鳥実習が有名
- ② 病院外の診療実習を増やしている
- ③ 市長との面談や懇親会を設けて、地元の特産品を提供している。
- ④ 院長と指導医、実習生と懇親会を開くようにしている。
- ⑤ 多職種会議へ出席・参加させている。
- ⑥ 実習の内容を学生に選択させ、主体性を生かしている。
- ⑦ 院外実習として、越鳥の大島診療所へ行かせている。
- ⑧ 実習は、医師会の先生とも協力している。
- ⑨ 地域住民向けの懇話会・勉強会において、学生に講師になってもらい、講演内容も任せている。
- ⑩ 外科系希望者は、内視鏡手術や外科手術に入ってもらっている。
- ⑪ 懇親会以外に、フットサルにつれていったりしたところ、担当学生が研修生1年目として、当院を選んでくれた。

学生を受け入れる上で困っていること・課題

- ① 見学が主となり、実習で手技をあまりできていなかった。
- ② 研修医、専攻医が同時に回っており、人手を要した。
- ③ マンパワーに余裕がなく、専任の教育担当者を設けていなかった。
- ④ 学生にさせてよい、手技・検査などの範囲を知らなかった。
- ⑤ 実習の担当医・指導医に不足し、努力が滞って大変だった。
- ⑥ 学生を飲み会に連れて行ってもよいのか？ 女子学生には遠慮している。
- ⑦ 地域包括ケアについて、正規診療内で説明する時間が少ない。
- ⑧ 健康講座をさせているが、講座を行う日程に合わせて学生が来るとは限らないので、できたり、できなかったり。
- ⑨ 実習の最後の方になると体調を崩す学生が居たため、当直や手技・実技の実習が負担になっているのかもしれないことがあった。



■ 発 行 ■

令和2年3月

■ 発行責任者 ■

大分大学医学部 地域医療学センター

内科分野 宮崎 英士

外科分野 白石 憲男

事務担当

福田 裕美 磯部 恵美
大畑 彩

住 所 由布市挾間町医大ヶ丘1-1

電 話 097-586-6306

F A X 097-586-6307
